

陸上競技部

船橋 伸禎

千葉大学医学部陸上部について

千葉大医学部陸上部は部の顧問に、初代は第一解剖教室の福山右門名誉教授、二代目に同嶋田裕名誉教授、三代目に陸上部OBの栗山喬之呼吸器内科名誉教授、一時期廃部になり、最近復活、現在は横須賀收腫瘍内科学教授に勤めていただいております。私が学生時代は、その縁で福山右門先生ご夫妻、嶋田裕先生を囲む会を千葉パレスホテルで毎年行っておりました。(写真1, 2)

私、船橋伸禎は昭和58年に地元県立千葉高校を卒業し、千葉大学医学部に入学しました。高校時代は2年の夏に途中より陸上部の長距離部門に所属し、全国高校駅伝千葉県予選二区に出場しましたが、在籍が短期間であったため、大学入学後にも本格的に陸上を継続したく、当初は全学系の陸上部に入部いたしました。入部手続きに西千葉のグラウンドにいったところ、各部門で活躍されていたのが、長距離部門では3学年上の村田淳さん(医学部(以下同じ)昭和61年卒、現千葉大学附属病院リハビリテーション部部長)、1学年上の近藤寛之さん(昭和63年卒、現産業医科大学眼科学准教授)、中距離部門では1学年上の横田朗さん(昭和63年卒、現千葉市立青葉病院血液内科部長)、そして短距離では萩原雅司さん(昭和61年卒、現習志野第一病院、整形外科)と、全て医学部の先輩であり、当時大変驚いた

のが印象的でした。すでに卒業されている斉藤幸雄先生(昭和57年卒、現国立病院機構、千葉医療センター呼吸器外科)は当時千葉大全学記録の100m10.7秒という記録を持ち、諸先輩方は5月に開かれた全学系の最大の大会である関東インカレ2部でも揃って出場されました。なかでも萩原さんは、追い風2.0mという公認最大の好条件下にも助けられ生涯自己ベストタイの100m11秒3を出し、さらに横田さんは800mで予選、準決勝で自己ベストを更新し、1分54秒16という日本全体の年間50傑にはいる大記録で5位に入賞いたしました。横田さんは翌年の関東インカレでも陸上の花形の4×400mリレーの第3走で3分17秒49という大記録で走られており、医学部陸上部の先輩方は千葉大全体でも大活躍されておりました。

全学陸上部に入部したものは、医学部の陸上部に入部するのが慣例と聞き、医学部陸上部のコンパに呼ばれました。医学部バス停で先輩が待っていると言われ、行ってみますと、日焼けして長髪で、黒縁のめがねをかけた文学青年様で、眼光が鋭い人がタバコを吸いながら立っていました。タバコを吸う人が陸上部の人ではあるまいと思って無視していると、「船橋か?」といわれそのひとが伊佐真之さん(昭和62年卒、現沖縄県立北部病院小児科部長)でありました。伊佐さんは後に千葉県の囲碁チャンピオンになり、カラオケでも英語で歌う多彩多芸の方で、外見は冷たい感じのする方でありながら、非常



写真1. 福山右門教授夫妻を囲む陸上部OBの方々+当時の陸上部の現役部員

第5章 交友の広がり

に面倒見の良く、部員に人望がある、医学部陸上部だけに所属する先輩でした。伊佐さんの専門は走り高跳びで、一年間練習をせず、ためにためたバネで、大会にて記録を出すという、全学の先輩とは異次元の先輩で、実際に医学部の大会で入賞もされたようです。伊佐さんに連れられて、旧サークル会館にいくと1学年上の大内聡さん（昭和63年卒、中村耳鼻咽喉科クリニック、旧千葉大学耳鼻科所属）がベッドで休んでおられました。大内さんは、同学年に横田さん、近藤さん、溝尾朗さん（昭和63年卒、現東京厚生年金病院・内科部長）といった医学部陸上部界での金メダリストが揃っており、そのため競技ではあまり目立たなかったですが、部内ではムードメーカーとして無くてはならない必須な存在でした。強烈なエピソードとして槍投げの競技直前に、御自身の800mの準備運動でグラウンドの中央に一人で寝ておられ、あやうく槍の串刺しになるところ、アナウンサーに注意され、みんなで助けにいったことが思い出されます。部室では医学部陸上部の部長と名乗る野本靖史さん（昭和60年卒、現船橋市立医療センター、緩和ケア内科部長）がすごい勢いでいろいろしゃべられ、内容はあまり覚えていないのですが、とにかくすごい先輩という印象が残りました。野本先生は当時すでに足の怪我をされておりましたが、小生の入部前は短距離で活躍されたそうです。野本さんには同年スキー旅行でペアを組ませていただき、スキーの実技とともに人生の生き方について教えていただき、大変お世話になりました。そして医学部陸上部には野本さんの1学年上に小野崎郁史さん（昭和59年卒、現在世界保健機構（WHO）にて新型インフルエンザ対策等で大活躍）、佐久間哲也さん（同、千葉大呼吸器内科所属）、藤本肇さ

ん（同、沼津市立病院放射線科部長）という御三家と菊野薫さん（昭和60年卒、現千葉県循環器病センター内科）という綺麗な女性の先輩がいることがわかりました。小野崎さんは野本さんと同様に足を怪我されておりましたが、全盛期は当時医学部陸上部界、中長距離で無敵といわれた旭川大学の山本長史さんに唯一800mで勝ち、山本さんに800mを断念させ、長距離に追いやったすごい人らしいこと、藤本さんも長距離で活躍されていたが、それ以上に頭が良く、また酔うと特殊な芸をされることがわかりました。佐久間さんは6年生でも短距離において4×100mリレーで金メダル、100、200mで銅メダルと現役バリバリで活躍されていました。佐久間さんは在学中、銀メダルのみ獲得できなかったというので、その年の全日本医歯薬獣で佐久間さんと私が二人で出場しました。その大会で佐久間さんは200mで見事銀メダル、小生は1500mで銅メダルをとり、その後なんでもごちそうしてくれるということで帰りにメロンカキ氷をご馳走になりました。またその他に医学部陸上部のみ所属されている先輩には榎本哲郎さん（昭和61年卒、現国府台病院治験管理室長）という俳優の暮目良のような彫の深い方が砲丸投げをされていること、江畑龍樹さん（昭和62年卒、現佐倉整形外科病院）が短距離をされていることを知りました。榎本さんは映画に造詣が深く、いっしょに鑑賞させていただき、またご実家がぶどう園をされており、毎年部員でお邪魔させていただきました。医学部陸上部の歓迎会のコンパでは部の顧問である第一解剖教室の嶋田裕教授の乾杯のもと、栗山喬之先生（昭和43年卒、現千葉大学呼吸器内科名誉教授）、古山信明先生（昭和43年卒、前千葉大附属病院手術部長・助教授）、南昌平先生（昭和48年



写真2.福山右門教授夫妻を囲む陸上部OBの方々+当時の陸上部の現役部員

卒、現聖隷佐倉病院院長), 金沢正一郎先生 (昭和49年卒, 元千葉大学第一内科, ビタミン研究室, 現蒲田総合病院健康管理センター), 横須賀収先生 (昭和50年卒, 現千葉大学腫瘍内科学, 消化器内科教授), 徳重克彦先生 (昭和53年卒, 現徳重整形外科院長), 今関文夫先生 (昭和54年卒, 現千葉大学腫瘍内科学准教授) 等多くの先生方に沢山出席いただきました。これらの先生方や卒業後の小野崎さんには以後も毎回お付き合いいただき, 大変お世話になりました。また大会にむけてのカンパを以上の先生方に加えて, 私が担当させていただいたOBの先生方だけでも滝西修司先生 (昭和39年卒, 三和医院), 小林英夫先生 (昭和41年卒, 小林整形外科院長), 石渡堅一郎先生 (昭和44年卒, 石渡内科医院), 神津照雄先生 (昭和44年卒, 前千葉大光学医療診療部教授), 平野和哉先生 (昭和46年卒, 平野胃腸科クリニック院長), 豊田敦先生 (昭和47年卒, 前成東病院, 現とよだ整形外科医院), 武井泉先生 (昭和49年卒, 平和病院名誉院長), 隆元英先生 (昭和50年卒, 現済生会習志野病院副院長), 佐々木憲裕先生 (昭和50年卒, 現聖隷佐倉病院副院長), 村山博和先生 (昭和55年卒, 現千葉県循環器病センター診療部長), 小野木淳先生 (昭和56年卒, 小野木医院院長), 荻野尚先生 (昭和57年卒, 現国立がんセンター東病院粒子線医学開発部長), 本田明先生 (昭和58年卒, 現北見工業大学保健管理センター教授) をはじめとした諸先生方には大変お世話になりました。お世話になりましたOB, OGの先生方全員にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また私の記憶が足りずお名前を載せられなかった先生方には深くお詫び申し上げます。

小生の医学進学課程1年の昭和59年に新潟で開かれた東医体では萩原さん, 佐久間さんが100, 200m両方で2, 3位, 横田さんが400mで1位, 800mで2位, 1500mで村田さんが3位, 5000mで村田さんが2位, 船橋が5位, 3000m障害で近藤さんが2位, 4×100mリレーで溝尾, 萩原, 佐久間, 横田さんで1位と大量得点を挙げ, トラック優勝を飾りました。その年は私も箱根駅伝の予選も走らせていただき, 千葉大全体で1位が村田さん (67分台), 4位が船橋 (73分56秒), 体調を崩された近藤さんが6位 (74分台) と医学部陸上部は大活躍しました。その後も村田さん, 横田さん, 近藤さんは東医体で活躍され, 村田さんは, 1500mは最高位が2位 (最終学年は逃げに逃げて, 惜しくもラストで刺され, 2位) でしたが, 5000, 3000m障害は優勝, 横田さんは400, 800mで優勝を続けられました。近藤

さんは, 調子が悪く途中まではどんなに疲れた形相で走っていても, 最終コーナーまでトップグループにいたらラストスパートで絶対に誰にも負けませんでした。精神力が異常に強かったのだと思います。6年生の関東医歯薬獣大会では, 大会前は練習不足もあり絶不調で優勝等狙える状態ではありませんでしたが, 1500m障害でラスト120mまでトップ集団にいて, 私はバックストレートで応援していた, この位置で近藤さんならラストで勝つと確信しましたが, 予想通り鮮やかなスパートで見事優勝されました。溝尾さんはしばらくブランクがありましたが, 6年生は絶好調で挑み, 東医体で4×100mリレーでアンカーとして, 3名抜きで優勝し一躍大ヒーローに。200mでも4位に入賞しました。実はあまりに絶好調なので, 東医体4×400mリレーにも投入させていただこうと思いましたが, 試験として東医体一週間前の千葉市の記録会で400mに出場してもらったところ300mまでは38秒台で走破しましたが, そこからの100mに18秒もかかり最終的に56秒もかかってしまいました。そのため400mはあきらめてもらい, 100, 200mに専念していただいたほうがよいと自他共に判断したことが本大会の成功につながったと今も考えております。

小生の後輩には昭和59年に1学年下の大滝雅之君 (平成2年卒, 現天神前クリニック勤務) が入部してくれました。彼は, 陸上競技の初心者でありながら, 長距離をじっくり走り続けることができるという特殊な才能を持ったひとであり, スピードは私が見た全陸上選手の中では一番遅いが, スタミナは傑出したものをもっています。村田さんは800mからマラソン, 横田さんは400-800m, 近藤さんは1500-3000m障害, 私は800-3000m, 大滝君は5000m以上と別々でありながら, みんないっしょのメニューで仲良く練習しました。横田さん, 近藤さん卒業後は, 大滝君に加えて, 窪田剛実君 (平成4年卒, 千葉大学消化器内科所属), 渡辺哲君 (平成5年卒, 現千葉大学附属病院感染症助教) といっしょに長距離の練習をいたしました。特に大滝君とは練習でも毎回真剣勝負を行って, 今でも小生の一生の仲間と思っています。一度メンバー不足のため大滝君に4×400mリレーを走らせたところ, 止まって見えるような走りでも多くのランナーに抜かれたため, リレーメンバーには二度と呼ぶことはありませんでした。しかし彼は5年生のとき東医体の5000m決勝で炎天下のなか, 1000m地点で一氣に集団から逃げをうち, 2位以下に大差をつけました。惜しくも残り2周で新潟の吉村, 渡辺君に捕まりましたが, 見事

第5章 交友の広がり

銅メダルを獲得しました。私は盟友の活躍に刺激され、その後に行われた800m決勝でメダルは獲得できませんでしたが6位入賞することができました。私はその後、走ることもなく、体重も増えてしまいましたが、大滝君は現在でも走り続け数年前に246kmを走る世界スパルタスロン大会で優勝され、祝勝会を有志で開き、JR千葉駅の東天紅で行いました。2005年スー周杰48時間走でも405.638km走り優勝と現在でも大活躍されています。

昭和60年に県立千葉高校陸上部時代より後輩の関直人君（平成3年卒、現国立病院機構 千葉東病院）、米倉あゆみさん（同、現石原あゆみ先生、現国立病院機構 下志津病院小児科）、浜岡朋子さん（同、千葉大学呼吸器内科）、吉田耕君（同、現吉田耳鼻咽喉科医院院長）が入部してくれました。特に米倉さんは医学部陸上界の枠に留まらず、1986年に国立競技場で開かれた全日本インカレにて4分40秒94で7位に入賞、2年後やはり国立競技場で開かれた関東インカレ2部にて3000mで10分07秒07と、医学部男子に混じっても遜色無い走力を見せてくれま



写真3. 砲丸を投げる、関直人さん
（青ユニフォーム、ゼッケン295番）

した。関君は砲丸投げ（写真3）が専門で、写真を見ていただけるとおわかりいただけるように他の砲丸投げの選手と異なり、スマートな体型ながら安定して5、6位の下位入賞を続け、千葉大に多くの得点をもたらしてくれました。砲丸投げの選手としては異例に走力もあり、普通の400m走ではたいした記録はありませんでしたが、4×400mリレーの第1走だけは妙に速く、後述の第2走の西平君とのコンビで途中まで先頭を維持する等印象に残る活躍してくれました。人間面でも部になくってはならない存在で、先輩、同級生、下級生、全てより慕われ、カラオケの18番はイルカさんのなごり雪でした。神奈川県や東京都内の陸上大会の後、酔って、総武線快速内でよくO先輩、渡辺哲君と大声を出していた

ので、窪田君と私は、下を向いて離れた席で他人のフリをしておりました。申しわけありませんでした。浜岡さんはスーパースターの米倉さんに記録面では隠れましたが、地道な練習が必要な800m、1500mで最後まで競技を続け、そのレーススタイルは、最初はゆっくりスタートし、一人ひとりを粘り強く抜いていくというもので、最高3位で多くの大会で入賞等の活躍をしてくれました。吉田耕君は槍投げが専門で、筋骨隆々でいつもにこにこした礼儀正しい好青年でたびたび入賞してくれました。

昭和61年入部組は千葉大医学部陸上部の黄金時代といわれ、前述の窪田君に加え、久保田博昭君（平成4年卒、現津田沼こどもクリニック院長）、熊野浩太郎君（同、成田赤十字病院リウマチ科）、山田恵子さん（同、千葉大学小児科所属）、小泉健一君（同、現小田原市立病院、呼吸器内科）、浅海直君（同、現板橋区役所前診療所）等たくさんの逸材が入部してくれました。窪田君は地道な努力で5000mに活躍したのに加え、非常に優しい性格で、部員を陰からまとめてくれました。久保田君は2年生のとき、東医体で4×100mリレーの第一走として金メダル、全日本医歯薬獣の4×400mリレーでは3走として銅メダルを取ってくれました。熊野君は医学界のハンマー投げで大変高名で、私とはものが違いましたが、2学年上に日本医大の井上松応君という1年から5年まで金メダルをとったスーパースターがいたので、いつも2位でした。熊野君に金メダルをとるためにどうしたらよいのかと話したところ、“練習を倍にする”等の答えを予期しましたら、“3年寝たろう作戦”を考えているといわれました。詳細を聞いてみると井上君に勝つのではなく、彼が卒業するのをじっと待つといわれました。しかし待っている間に、さらに強力な新人が登場し井上君の6連覇を阻止してしまい、後の私の人生の考え方に大きな影響を与えてくれました。山田さんはリレーで銅メダルを獲得、小泉君は途中から入部してくれた全くの陸上素人でしたが、400mで突如ブレイク、4×400mリレーにて48秒台で走った天才でした。しかし予選では快走するも、決勝では棄権したりして、横田さんと同等か、それを上回る素質を持ちながら、大きなタイトルはとれませんでした。横田さんと小泉君が同時期に活躍したら、4×400mで千葉大が優勝するのも十分可能であり、とても残念でした。浅海君も途中から入部してくれ、専門は円盤投げでした。同級生より年配で、同級生からは浅海さんといわれて尊敬されていたようです。実際、陸上部の同級生より人格面で当時よりかなり成熟、完

成されていました。

昭和62年は、前述の渡辺哲君と西平隆一君（現神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器科）が入部してくれました。渡辺君は当時流行っていたバック・トゥー・ザ・フューチャーのマイケル・ジェイ・フォックスに似ていて、バンドのボーカルをしていましたが（一度見たコンサートでは鶏のとさかのようなファッションでローリングストーンズのサティスファクションをカバーしていました）、陸上は初心者ながら入部してくれました。種目は地道な練習量を必要とする長距離を選択し、2年生時は関東医歯薬獣の1500m障害で3位に入賞、その後も6年までタイムを伸ばして活躍し、私は5000mの自己ベスト記録で抜かれてしまいました。西平君は関君の項目で書きましたが、中学より200、400mを専門とした即戦力として数多くのリレーで大活躍。4×100mリレーでは第3走として見事にコーナーを走りきり、東医体の金メダル獲得に貢献。4×400mリレーでも1、2、4走とチーム事情によって見事な走りをしてくれ、千葉大医学部陸上部に多くのメダルをもたらしてくれました。不調で疲れると走行中に体が反り返り、手の振りが大きくなるのが特徴で、これがでると残念ながらダメでした。さらに昭和63年には白石佳澄さん（千葉大小児科所属）も入部してくれ、4×100mリレーで銅メダルをとってくれました。以上が文責の船橋が在学中の先輩後輩

のエピソードです。写真4、5はそれぞれ昭和62年、63年の東医体終了後の陸上部の全体写真です。私が卒業後も、現在千葉大学産婦人科助教の木原真紀先生等が活躍されましたが、数年後に医学部陸上部が廃部になったと聞き、大変残念に思いました。しかし最近医学部生の有志が再度陸上部を結成してくれて部が復活、なかでも秋田県立秋田高校出身の遠田泰平さんが2005年にハーフマラソンで千葉大全学でも歴代2位の1時間10分04秒を出す等の活躍をし、顧問が栗山名誉教授の退官に伴い、横須賀教授が就任され、これからよりいっそうの復活が期待されます。

最後に2008年4月18日には栗山名誉教授、古山部長の退官を記念して、ホテルミラマーレで陸上部OB会を行い50名近くの先生方に集まいただきました。会の最後に神津照雄教授（前千葉大光学医療診療部教授）より、定期的に会を設けようとおっしゃっていただき、次回は神津教授の退官記念が大滝雅之先生のスパルタスロン優勝で、我々の“思い出”の居酒屋“五味鳥”で行おうとってお開きになりました。しかし大変残念ながら神津教授の急逝で、御通夜、告別式が医学部陸上部OBの悲しみの再会の場になってしまいました。また是非神津教授を偲ぶOB会を、横須賀教授と相談して近いうちに行いたいと思います。

（ふなばし のぶさだ）

写真4. 昭和62年
東医体終了後の陸上部の全体



写真5. 昭和63年
東医体終了後の陸上部の全体